

- ◆ 2017年12月の国連総会で採択・宣言
- ◆ 海洋科学の推進により、持続可能な開発目標(SDG14「海の豊かさを守ろう」等)を達成するため、2021-2030年の10年間に集中的に取り組を実施



国連海洋科学の10年

取組期間
2021-2030

2030 持続可能な開発目標の達成

【目的】

- 海洋の持続的な開発に必要な科学的知識、基盤、パートナーシップを構築する。
- 海洋に関する科学的知見、データ・情報を海洋政策に反映し、全ての持続可能な開発目標達成に貢献する。

【国連海洋科学の10年で目指す社会的成果】

- きれいな海 - A Clean Ocean
- 健全で回復力のある海 - A Healthy and Resilient Ocean
- 持続的に収穫できる生産的な海 - A Productive Ocean
- 予測できる海 - A Predicted Ocean
- 安全な海 - A Safe Ocean
- 万人が利用できる海 - An Accessible Ocean
- 心揺さぶる魅力的な海 - An Inspiring and Engaging Ocean



総合海洋政策本部参与会議等での議論 第3期海洋基本計画(H30.5閣議決定)

国連海洋科学の10年の実行計画策定及びその実施に積極的に関与し、SDGsの達成に向けて我が国として貢献
総合海洋政策本部参与会議意見書(R2.6.30)
国連海洋科学の10年に積極的に関与していくことが重要

日本ユネスコ国内委員会 建議

ユネスコ活動の活性化について(R1.10.18決定)

「国連海洋科学の10年」に向けた活動の活性化

2021年から始まる「国連海洋科学の10年」に向けて、持続可能な海洋の保護と利活用における科学の重要性について普及を図ること。また、ESDとの相乗効果が得られるような教育関係者との協力も含め、SDGsの達成に幅広く貢献するよう分野を越えた連携を図ること。

「国連海洋科学の10年」日本国内委員会の発足(R3.2)

多様なステークホルダーを巻き込んだ展開が必要！
海洋科学コミュニティ、海洋政策・SDGs政策関係者、ビジネス・産業界、ドナー・財団、市民社会 & NGOs等



他のSDGsの達成にも貢献



ユネスコとの関係



- ・「国連海洋科学の10年」の国連への提案主体
- ⇒ユネスコIOCにおいて2年にわたり提案を審議。
- ⇒ユネスコ総会を経て、2017年の国連総会で採択・宣言

ユネスコIOCにおいて、「国連海洋科学の10年」に向けた取組を推進

「国連海洋科学の10年」の実実施計画策定機関

⇒IOCにおいて、2021-2030年に実施すべき具体的な取組をとりまとめた実施計画を策定。国連総会に提出(R2.12)
IOC事務局内に「Decade Coordination Unit」を設置

ユネスコIOC: 政府間海洋学委員会

Intergovernmental Oceanographic Commission

- ・国際協力により地球規模での海洋学に関する知識、理解増進のための科学的調査の推進を図ることを目的に1960年に設立
- ・海洋科学調査及び研究活動に係る唯一の国連機関

